

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 **べにばな** )

事業所番号	0670100940		
法人名	株式会社 東北医療福祉システムズ		
事業所名	やすらぎ苑山形		
所在地	山形市東山形1丁4番12号		
自己評価作成日	平成24年 9月 10日	開設年月日	平成13年 1月 4日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成13年の開設以来レクリエーションには力を入れて取り組んでいます。平成23年11月28日に東山形に移転し、目の前にはひぐらし公園があり、その公園をお借りして春にはお花見会、夏には夏祭り『千歳祭』を開催し、利用者・御家族を始め地域の皆様にも楽しんで頂きました。初夏には日帰り旅行を実施しており、大型バスを貸し切って小旅行に出掛け美味しい物を食べ郷土のお土産物を買ったり思い出を作っています。べにばなユニットにはハーモニカを演奏して下さる利用者がいらっしゃるの、皆の歌声が聞こえる時間がたくさんあり楽しく暮らしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新築移転してまもなく一周年を迎えようとしており、新しい地域・新しい建物にも溶け込み普段の穏やかな生活に戻っています。花見、夏祭り、いも煮会、日帰りバス旅行などの行事に力を入れ準備段階から開苑時に発足した家族会の手伝いがあり、利用者、家族等、職員と一緒に楽しむ事が心のつながりに繋がり、また利用者の個性を大事にしその人に合った「生き甲斐づくり」を応援している事業所です。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形市小白川町2丁目3-31		
訪問調査日	平成 24年 11月 2日	評価結果決定日	平成 24年 11月 26日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り後に理念を唱和し実践への意識付けをしている。又、ユニットの理念も玄関の目の付く所に掲げている。	開苑時からの3つの事業所理念の他にユニット毎に職員が考えた独自の理念を掲げ、利用者と職員が何をするときも一緒にしながら、得意なことをしてもらい場面作りを工夫して笑顔に繋がるような支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントの声掛けをし参加して頂いている。また地域の方のボランティアや隣接する畑の方との交流をしている。	ボランティアの来訪が多く、毎月のお茶会やラーメンの出前調理など長年継続している。新しい地域での交流も増えつつあり、花見や夏祭りなどの行事に参加案内し、これからも積極的な働きかけをしたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やボランティアの方々に向けて理解を求めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回現状報告し、活発な意見を頂きながらサービス向上に活かしています。	家族会代表3名をはじめ出席者も多く、事業所から話題提供すると会話が広がり活発な意見交換の場となっている。地域に事業所をもっと知ってもらうことや避難訓練に対してのアドバイスなどもあり、それらの意見を共有しサービスに反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回の介護相談員の訪問にて意見を頂いており、又、市役所窓口へ相談に伺い問題解決に取り組んでいる。	市の担当者とは連絡事項や相談事など疑問に思った事は何でも話し合える関係で迅速に対応してもらい、日頃より協力関係を築いている。毎月2名の介護相談員の訪問があり、利用者との会話も弾んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束の社内研修を実施し拘束しない個別ケアに取り組んでいる。危険防止のベット柵やセンサーを設置する場合は家族の了解を得てから実行している。	職員は身体拘束の弊害について研修し、家族等の同意も得て共有して理解を深めている。日中玄関は開放しており、出かけたくなる利用者には職員の見守りや連携を工夫し、安全な暮らしができるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加は少ないが情報を共有し声を掛け合いながら防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者で制度を利用している方がいますが、全職員の理解は不十分である。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に家族への説明を充分に行い同意を得ている。又、必要時には経営者からも説明を行い、理解・同意を頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時の会話や思いを文書化している。又、意見箱を設置し運営に反映させている。	開苑時から家族会があり、総会や面会時にでた意見を「家族の声」として大事に捉えている。家族等が参加する行事も多く、準備から手伝い協力がある。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とは随時、代表者とは職員の個人面談が実施されている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者を通じ勤務状況を把握し、又、職員の個人面談を通して環境作りを行っている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験、業務内容に合った研修に参加し、研修後の報告をミーティング等で行いながら知識・技術の向上に努めている。	経験年数などを考慮し、なるべく職員全員が多くの外部研修に参加できるようにしている。気になったことがあれば互いに注意し合い、研修報告を共有しスキルアップを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡協議会主催の訪問研修等で情報交換し、質の向上を図れるよう取り組んでいる。	グループホーム連絡協議会主催の交換研修会に参加、受け入れをし、他の事業所を知ることにより刺激を受けたり、自分の事業所の良いところの発見や自信に繋がっている。今後も他事業所と利用者を交えての交流を続けたいと望んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報収集を全職員が共有し、充分なコミュニケーションを取りながら馴染みの関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の充分な説明と、開始後の情報交換に心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを理解し、出来る限り望み通りの支援が出来るよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のお手伝いをさせて頂く事を軸に、人生の先輩から学ぶという気持ちとともに、共生としての関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とコミュニケーションを取り支援に協力頂いている。又、遠方の家族にはこまめに連絡を入れ、時には本人とも電話で会話できるよう支援している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会だけでなく、近所の方々や友人等の面会も受け入れている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように話題提供し、気配りし、必要時には職員が間にフォローに入る等の支援に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院等への移転後も面会を行いコミュニケーションを図っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の行動や会話を通し、本人の思いを汲みとり、出来る限り希望に添うように支援している。	生活歴や家族等からの情報を得ているが一緒に過ごすことにより会話の中の何げない一言を聞き逃さず、職員の感性から違う一面を見つけることがある。好きな歌手やバイオリンのコンサートなど個別の希望に数名の職員も同行し、一緒に楽しんでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやアセスメントを活用し、全職員が把握できるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、伝言ノートの活用により、情報の共有が途切れないようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度モニタリングを行い、カンファレンス時に話し合いを重ね、常に新しい生活課題の発見に努め作成している。又、家族への説明をし、同意を得て、更に家族の意向も汲み込むようにしている。	担当職員を中心にどうすれば利用者がより良い生活が送れるかと課題を見つけ、職員全員で話し合い個別の介護計画を作成している。主治医や家族等の意見も取り入れ定期的には6ヵ月毎に、変化があればその都度見直しが行われている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録と伝言ノートの活用で情報の共有をし、カンファレンスに臨んでいる。又、介護計画に沿った対応が出来るかケアプランチェック表を活用し毎日確認している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のかかりつけ医や歯科医院の受診や往診により安心して暮らしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族より希望のある病院には家族の協力を得て通院して頂いている。当苑のかかりつけ医の先生からは2週に1回の往診を実施し、現状や状態を報告している。	移転前からのかかりつけ医の定期的な往診があり、利用者、職員にとって心強く、主治医の顔を見るのが楽しみとなっている。緊急時には、看護師の指示を受け、両ユニットの職員が協力し合う事で安心して繋がっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制の看護師が常勤であり、いつでも相談し指示を受け対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の看護師や病院関係者との情報交換を密に行っている。又、かかりつけ医と相談しながら努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	家族への状況を報告し意向を踏まえながら十分に話し合い看取りの同意書を頂いたうえで、主治医と相談しながら取り組んでいる。	10月に2件の看取りを行っており、家族等の迷いや利用者への思いを共に寄り添いながら実感し、家族の意向の大切さを第一に全職員で共有している。今後、終末期ケアに向けて、事業所のできる範囲を十分に話し合い、主治医・職員との連携、そして家族との信頼関係をより深めていきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの訓練は実施したものの、定期的には行われていない。が、殆どの職員が救命救急法の研修を修了している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を消防署の職員の指導のもと行っている。協力を依頼している方にも参加してもらい意見などを頂いている。	運営推進会議の参加者から、避難訓練の順番や避難経路など防災に関する意見をもらっている。防災協力をはじめ、地域との協力体制を築けるよう働きかけながら年2回消防署の協力を得て訓練を行っている。災害時に向け、風呂の水は捨てないでおく事など新たに取り組んでいる。		
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいには配慮しているが、慣れ合いの言葉掛けになってしまう事があるので、考えて対応していきたい。	利用者との親しみある関わりの中で、くだけ過ぎた声がけにならないよう、尊厳を持った支援をしている。多くを語らない利用者には得意な事を発揮できる場面作りに配慮し、表情・しぐさから思いを感じとり、職員間で情報交換している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が表現できやすいように会話の工夫をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で本人を尊重して支援しているが、施設の決まりや都合が優先してしまう時がある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大事にして、着たい服を選んでもらっている。又、殆どの利用者が出張美容を利用して、その人に合ったヘアスタイルとなっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来る作業に合わせて一緒に準備をし、会話を楽しみながら一緒に食事をし、食器拭きやテーブル拭き等の簡単な後片付けを一緒に行っている。	献立には、畑から収穫した野菜や旬の食材を取り入れ、利用者のできることは職員と一緒にしている。家庭的な雰囲気を持つため、自分の箸、おわんを使い、利用者と共に食卓を囲んでいる。また月1回ラーメンの日があり、楽しみの一つとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の身体状況に合わせた食事形態や量、栄養補助ドリンク等を提供し支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。自ら出来ない人には義歯を預かる等の対応をしている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンや状態を把握した上で個別に対応している。自立に向けた支援を行っている。	一人ひとり見極めながら利用者の生活リズムに沿って早めの声かけ・誘導を行い、支援している。失敗時には申し送りを徹底し、羞恥心や自尊心に配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操や歩行運動、又は乳製品等の摂取で対応しているが、一定期間に排便が無い場合は、下剤に頼る方もいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯は午後からと決まっているが、習慣化している。又、状況や体調により対応する時もある。	利用者の要望や体調に応じた支援を心がけている。浴室は個別対応の為、歌をうたったり職員との会話も弾みリラックスした入浴となっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた休息が出来るように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録ファイルに薬の説明書を綴じてありいつでも目が通せるようにしている。症状の変化時には看護師に報告し医療機関との連携を図れるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の得意な事が発揮できるように色々な場面作りをしている。又、施設の中だけの生活にならないように外出や散歩、ドライブ等の支援に力を入れている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて日光浴、散歩、買物、ドライブ、弁当開き等を実施。コンサート希望者に付き添いした事もある。又、毎年、日帰り旅行を企画し、普段行けないような場所へ出かけている。	事業所のすぐ前に広い公園があり、利用者に合わせて職員と共に散歩をしている。毎年恒例の日帰り旅行では家族等と一緒に出掛け笑顔が見られる。また個人外出支援にも力を入れており、お墓参り・コンサート等、利用者の要望にも対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の出来る方には買物を見守り支援している。又、日帰り旅行時は、お小遣いを用意し楽しませている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会の困難な家族には状況報告時に電話に出て話しをしてもらい程度である。又、利用者の姉妹から定期的に手紙が届くので返事を書くこともある。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、思い出の写真を飾ったり、居室には使えない慣れた家具を持参している方もいます。又、共有空間には観葉植物や花を飾り季節感を味わっている。	新築移転してまもなく一年になり設計にも携わり、事務所を中心に左右にユニットがあるため、いつでも自由に行き来することができる。各ユニットのリビング・廊下も広く、ゆったりと動きやすい共用空間となっている。みんなが集まるリビングの大きなガラス窓からは外の景色を見渡すことができ、四季の変化を感じている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや食席で、又は、居室を訪問したりして気の合った者同志会話したりのんびりと過ごしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人用のテレビや家具の持ち込みにより、居心地良く過ごしている。</p>		<p>利用者の使い慣れた家具や親しみのある物などを持ち込み、その人に合った居室づくりをしている。移転してまだ1年という事もあり、これから各居室にコルクボードを取り付けて、写真や作品を飾る予定である。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室の表札設置や目印に工夫し、玄関には回転椅子を置き、自力で靴が脱ぎ履きできるようにしている。</p>		/	/